

近代化と月島の誕生

明治政府は、強い力をもつ海外の国々に対抗するため、経済を発展させて国を豊かにし、軍隊を強くすることを目指した。経済発展のために東京港の整備が進み、川底を取り除いた土砂で埋め立て地がつくられた。こうして月島が生まれた。

築かれた島なので、最初は「築島」とよばれていたのが、築地と区別するために、「月島」となったんだって！



<国を豊かに強くする>

●生産を増やすために技術力を育てる

明治政府は、富岡製糸場(→p.88)などの国営の模範工場を設立し、優れた技術の紹介や、新しい技術の開発を行った。すると、ここで技術を身につけた工女たちがふるさとに戻り、今度は地元の工場で教えた。こうして製糸技術は日本全国に広がっていった。

明治政府は、国を豊かにするために近代産業を育てる殖産興業の政策を進め、強い軍隊をもつために徴兵令を出した。新しい国づくりのために行った、これらの政策を「富国強兵」といい、ここから日本の近代化がはじまった。



築地製糸場
築地に開設された民営の製糸場。製糸業は明治の主力産業で、全国各地に工場がつけられた。製糸場でつくられる生糸は日本の輸出を支えていた。



●兵役が義務になった

江戸時代まで、戦いは武士の仕事で、一般の人々は武士の支配を受けるかわりに、戦う義務はなかった。ところが、1873(明治6)年に徴兵令が出され、20歳以上の男子は身分にかかわらず、だれでも兵士として戦う義務を負うことになった。

日本の軍隊
外国の軍隊を手本にしてつくられた。

身長が154.5cm未満の人や病弱な人は、兵の対象から外されたんだって。



近代技術や物産を展示した内国勧業博覧会

明治政府は、殖産興業のために内国勧業博覧会を開催した。製糸をはじめとする、国内産業の技術向上をねらって、第5回まで続けられた。



第1回内国勧業博覧会

1877(明治10)年、東京の上野公園で開催された。会場には、美術本館、農産館、機械館などが建ち並び、3か月以上に渡って開催された。全国から品物を集めて展示をし、商品として、その場で売った。このとき売れ残った品物を集めて、永楽町(現・千代田区丸の内)に勤工場(→p.78)がつけられた。

軍艦で国を守ろうとした

1853(嘉永6)年、幕府は水戸藩に命じて、石川島(現・佃)に石川島造船所を開設させた。それまでの幕府は、軍備を制限するために、大名が大きな船をつくることを禁止していた。しかし、ペリー来航でアメリカの軍艦の大きさにおどろき、国を守るには、外国に負けぬ軍艦が必要だと考え、造船業に力を入れた。のちに明治政府が誕生すると、造船所は国で管理した。1876(明治9)年に民間に売り渡された。



旭丸

石川島造船所で最初につくられた西洋型木造軍艦。外国船をまねて日本人がつくったため、技術が低く軍艦として実用ではなかったが、船体はじょうぶなつくりで運送船としてつかわれた。明治になってからは、沿岸を運航する民間の運送船になった。

殖産興業のための交通整備



●鉄道の開通

最初に開通した新橋～横浜間の鉄道は、開港された横浜と、首都となった東京を結ぶためだった。続いて、神戸～大坂間、大阪～京都間、小樽～札幌間など、おもな港と大都市を結ぶ鉄道が開通していった。

埋め立て地は、少しずつ範囲を広げられたよ。埋め立ての歴史をみてみよう。



生糸などの輸出を増やして、国を豊かにしたい明治政府は、それを大量に運ぶための交通整備を進めた。蒸気船(→p.82)の運航がはじまり、1872(明治5)年には新橋(現・汐留)～横浜間に鉄道(→p.84)が開通した。

●航路の確保

隅田川河口の川底にたまった土砂を取り除き、大きな船の出入りを確保する工事が、1884(明治17)年からはじめられた。このとき、海底から取り除いた土砂をつかって月島埋め立て地がつくられた(→p.215)。



幕末から明治初期の石川島と佃島

幕末までの佃島は漁師の島、石川島には人足寄場が置かれていた。

月島1号地・月島2号地
佃島から先の砂洲が1891(明治24)年に月島1号地として、さらにその先が1894(明治27)年に2号地として、埋め立てられた。

新佃島
佃島の右手の砂洲を埋め足し、1896(明治29)年に新佃島が完成した。



外国に学ぶ

明治政府は、外国の進んだ制度や技術を取り入れるため、高いお金を出して、多くの外国人をやとった。これらの人々は「おやとい外国人」とよばれ、製糸・鉄道・建築・法律・軍事など、さまざまな分野で活躍し、日本の近代化に大いに役立った。



●製糸技術

富岡製糸場にやってきたおやとい外国人は、ブリューナというフランス人だった。ブリューナはフランスから工女をよびよせて、生糸をつくる方法を指導した。



●鉄道技術

日本の鉄道建設のためにやとわれた外国人は、モレルというイギリス人だった。モレルは鉄道をしくための測量技術や、建設費の節約方法なども指導した。



国からの情報を伝える

1873(明治6)年、築地に平野活版製造所が設立された。イギリスから輸入したアルビオンプレスという手引き印刷機をまねて活版印刷機をつくり、日本の情報を広める役目を果たした。明治期以降、近代化を急ぐ明治政府から国民に向けて、度々出された省令類の印刷や、新聞や雑誌の発行部数の増加などで発展した。



平野富二(1846~1892)
明治の技術者、実業家。平野活版製造所を設立した。1876(明治9)年には、石川島造船所の売り渡しを受けて、造船事業にも力をつくした。